

人間社会デザインコース・希望の経済学

担当教員：松野尾 裕

コースの DP（教育到達目標）に基づいた授業評価

社会科学教育講座・松野尾 裕

1. 授業の概要

授業の基本テーマ：

経済の発展と人間の発展(economic development and human development)の探究。

教職資格にかかわる事項：中一種免（社会）「社会学、経済学」・高一種免（公民）「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の選択科目。

授業の目的：21世紀の社会を真に人間の思いやりに満ちた社会とするために、経済活動はいかにあるべきか。そのビジョンを描き実現の可能性を追究するための基礎的力を身につける。

授業の到達目標：

(1)人間が生きるにふさわしい経済社会の創造を模索する思考を身につけている。(2)幾つかの著作を手がかりにして新しい経済社会を構想する短いエッセーを論述することができる。(3)社会的企業や NPO 等の新しい経済社会をつくる具体的な運動に関心を持つことができる。

授業の内容と展開：人間が生きるにふさわしい経済社会を創造しようとする実践的・理論的試みを幾つかの事例に則して追究する。扱う事例は、下記の授業スケジュール(当初の予定)を参照。

第1回 はじめに

第2回 人間の経済

第3回 A.T.アリヤラトネの実践ーサルボダヤ・シュラマダーナ（1）

第4回 A.T.アリヤラトネの実践ーサルボダヤ・シュラマダーナ（2）

第5回 M.ユヌスの実践ーグラミン・バンク（1）

第6回 M.ユヌスの実践ーグラミン・バンク（2）

第7回 賀川豊彦の実践ー生活協同組合（1）

第8回 賀川豊彦の実践ー生活協同組合（2）

第9回 中間のまとめ/質疑応答/討論

第10回 UNDPー人間開発（1）

第11回 UNDPー人間開発（2）

第12回 A.センの経済学（1）

第13回 A.センの経済学（2）

第14回 振り返り/質疑応答/討論

第15回 むすび

授業の方法：第1回、第2回と第15回は教員の講義、第3回以降は受講者による報告と討論を中心とし、適宜、教員による補足説明がある。

授業時間外の課題：授業中に指示された参考文献や資料等を利用して、理解の不十分なことがらを調べる等の復習をおこなう。また、授業における報告・討論のための準備をおこなう。

授業で用いたテキスト：

(1) A.T.アリヤラトネ著/山下邦明・林千根・長井治訳『東洋の呼び声 広がるサルボダヤ運動（新装版）』はる書房、2001年

(2) ムハマド・ユヌス著/猪熊弘子訳『貧困のない世界を創るーソーシャルビジネスと新しい資本主義ー』早川書房、2008年

その他に、関係資料を適宜配布。

授業の進行状況：当初の予定の半分(第9回)までのところで15回分の時間を使い終わり、第10回以降に予定していた理論的考察まで進むことができなかった。

成績評価：授業中の報告・討論内容と期末に課すレポートの内容に基づく。評価の基準は、まず授業の内容を理解しているか(50点)、次いでその理解した内容を各自の考察へと発展させているか(50点)、である(計100点)。

2. 授業評価法

下記の授業改善のためのアンケートを実施した。

授業科目 希望の経済学

このアンケートは授業の改善を図ることを目的として実施するものです。アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることは決してありません。率直な意見をご記入願います。

(氏名 _____)

次の5つの項目は人間社会デザインコースの教育目標（ゴール）です。この授業が各目標の達成に役立ったと思うか、1～5の中から1つを選択して○で囲ってください。

1 思わない 2 やや思わない 3 どちらと

も言えない 4 やや思う 5 思う

(知識・理解) 1 2 3 4 5
共生社会を築くための議論を理解し知識を習得している。

(思考・判断) 1 2 3 4 5
自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザインすることができる。

(技能・表現) 1 2 3 4 5
科学的・実践的な知見に基づいて社会問題に柔軟に対応できる技能と表現力を身に付けている。

(関心・意欲) 1 2 3 4 5
現代社会の諸問題に関心を持ち、主体的な学習ができる。

(態度) 1 2 3 4 5
共生社会にふさわしい対人関係能力を身に付け、適切な行動ができる。

自由記述欄 (この授業に関する意見があれば自由に記述してください)

3. 授業評価結果

受講者 18 人中、14 人が回答した。

	1	2	3	4	5
(知識・理解)	0	2	2	7	3
(思考・判断)	0	1	6	6	1
(技能・表現)	2	2	4	6	0
(関心・意欲)	0	2	2	6	4
(態度)	1	1	5	4	3
計	3	8	19	29	11

自由記述

○ 今回の希望の経済学の授業は、発展途上にある国が新たな社会システムを創り上げていくなかでの草の根の運動や思想に触れるものであり、私たち(先進国)がこれから新たな経済システムを考えるうえで学ぶべき事がたくさんあったように思う。資料がよかったです。

○ 先生の話される様々なことを自分自身の頭で整理しないといけないと思いました。人間社会デザインコースの3つのフォーラムなら福祉色が強いと思いますが、いろいろな争いなどで貧しい国の自立を考えれば平和の要素も入ってくるし、住民自身による地域の復興を考えれば地域だとも捉えられると感じました。

○ 発展途上国がどのように経済発展することができるのかを、例を挙げられていて、理解しやすかったです。授業の内容をどのように自分たちの生活に結びつけていくかが今後の課題であると思いました。

○ 現代社会で一体どのような問題が起きているのかをしっかりと考え、それに対して自分がどのような行動、そして生き方をしていかなければいけないのかということをよく考えることができた授業であると思う。

○ 私は1回生の時に共通教育の授業(「暮らしと経済」)を受けていたので「共生」の話やムハマド・ユヌスの話はわりとすんなり入ってきました。先生の授業は経済と福祉が結びついておもしろかったです。ゲゼルシャフトが社会学の教科書にでてきました。

○ 少し内容が難しいというか、ひとがまとめたレポートでは分かりづらい所があった。社会的企業などとても興味があるのですが、その例を基に日本社会にどうつなげるのかを議論する時間があったら良い。

○ 今回のこの授業で取り上げられたサルボダヤ運動などを自分たちの今の生活に結びつけて考えることは難しかった。経済学を自分たちの生き方や社会のあり方として考えられないので、これからの課題としたい。

○ 1つの題材についての時間がかかりすぎかと思った。

○ 学生にもう少し意見を求めてもいい気がした。

○ 一度ついていけなくなってから、ほとんど理解ができておらず、主体的に勉強ができていなかった。

4. まとめ

受講者は人間社会デザインコース 2 回生が 15 人、生活環境コース 2 回生が 3 人であった。授業評価アンケートに授業の到達目標ではなく、それよりも大きな枠組みであるコースのDPを直接的に用いることについては、FDの議論で賛否両論があるようだ。授業自体がコースに所属しない学生にも開放されているのだから、それぞれの学生の受講目的に応じて授業評価もまたなされてよいともいえる。授業の適正さを評価するために如何なる基準を用いればよいかは、実際、試行錯誤のところがある。「希望の経済学」はコースのオリジナル科目として当初から設計された科目であるので、今回はコースのDPと照らして評価してもらった。評価結果は上に示した通りである。「知識」「関心」の数字が高いのに対し、「思考」「技能」がやや低い数字となっている。「態度」は二分化された。DPは卒業時の到達目標であるから、現時点の学生にはまだまだ遠くに望むゴールである。今後他の科目を履修していくなかで希望の経済学に対する評価が変わってくることもあるだろう。